

## 第一志望を受けよう

夏休み中は大きな事故もなく、本日、皆さんが元気に登校し、2学期の始業式を迎えることができたことを、大変嬉しく思います。

さて、今日も、いつもの「一流」「自学力」「港北スピリット」「アクティブ・ラーニング」に関連したお話です。平成 29 年 7 月、文部科学省は、「高校生のための学びの基礎診断」実施方針及び「大学入学共通テスト」実施方針を策定し、「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を決定しました。

平成 33 年度大学入学者選抜というのは、平成 32 年度に実施される大学入学者選抜のことです。つまり、現在の中学 3 年生、平成 30 年度入学生 (50 期生) から適用される大学入学者選抜のことです。皆さんには、関係ない? 否、関係ないはずがありません。

「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニングの視点)」を柱とした高等学校学習指導要領は、まだ告示されていません。(平成 29 年度中(平成 30 年 3 月まで)に告示予定です。)そして、その適用は、平成 34 年度入学生からとなります。にも関わらず、本校は、逸早く、「課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に学び続ける力』」を育成すべく、「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニングの視点)」の実現に向け、授業力向上に取り組んでいます。何故か?いつもの私流で言わせてもらうならば、「生きる力」を育成するためです。皆さんに、幸せになってもらうためです。

では、なぜ、「大学入学者選抜」の「見直し」なのか。これも、私流に言わせてもらえば、「生きる力」を育成するための、幸せになるための新学習指導要領を待ちきれないからです。学習指導要領が変わらずとも、大学入学者選抜が変わってしまえば、高校は変わらざるを得ない。だから、まずは大学入学者選抜を変えるのだと理解しています。つまり、新学習指導要領を待ってられない港北高校と、新学習指導要領を待ってられない「大学入学者選抜」の「見直し」とは深くつながっているということになります。

それでは、平成 32 年度から実施される、見直しの内容です。

- ① 大学入試センター試験に代わり、「大学入学共通テスト」が始まります。現行センターの択一式問題だけでなく、国語・数学に記述式問題が導入されます。国語の場合は、80~120 程度の字数での記述ということです。
- ② 英語では、「読む」「聞く」だけでなく、4 技能 (「読む」「聞く」「話す」「書く」) を評価するために、外部検定試験が活用されるようになります。
- ③ AO 入試・推薦入試において、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、大学入学共通テストのうち、いずれかの活用が必須化されます。

受検生の「学力の3要素（①～③）」について、多面的・総合的に評価する入試に転換するという事です。

- ① 知識・技能
- ② 思考力・判断力・表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

これも、私の言葉で翻訳すれば、一般入試にAO・推薦入試的要素が加わり、AO・推薦入試に一般入試的要素が加わるということになります。そして、私は、その方針を大変嬉しく思っています。何故か？この方針は、第一志望主義を加速してくれるのではないかと期待しているからです。私は、皆さんに、第一志望を受けてほしいと思っているのです。

本来のAO・推薦入試というのは、第一志望を受けるための制度です。しかし、実際のAO・推薦受験は、第一志望（行きたい）よりも合格（行ける）を優先することが往々にしてあります。何故か？AO・推薦入試と一般入試とでは、準備の仕方が大きく違うからです。AO・推薦入試で第一志望を受験するためには、一般入試のための受験勉強をしながら、AO・推薦入試対策をすることになります。「二兎を追うものは一兎を得ず」となれば、AO・推薦なのか一般的なのか、どちらか一本に集中することになります。一般受験一本ならば第一志望を目指しますが、AO・推薦一本となれば、第一志望（行きたい）よりも合格（行ける）の方に神経が行くのもごく自然なことです。

3年生のAO・推薦希望者は、第一志望との兼ね合いに悩んだことだろうと思います。しかし、絶対的な「第一志望」というものはありません。今現在の第一志望が、嘘偽りのないあなたの第一志望なのです。第一志望を貫徹し、合格を勝ち取ってほしいと思います。

そして、一般受験の皆さん。第一志望に向かって、勉強してください。第一志望は、あなたを動かすエネルギーであり、エンジンです。結果的に、第一志望に受からなくてもいい。いつも言うように、大切なのは、「結果ではなくプロセス」です。「第一志望に向かう」というプロセスが大切なのです。結果的に、第一志望には受からないかもしれない。でも、そこまで、あなたを引っ張り上げてくれたのは、「第一志望」です。「第一志望に向かう」ことは、決して、あなたを裏切りません。そして、この場合も絶対的な第一志望というものはありません。最終的な進学先が、結果としてのあなたの第一志望なのです。それは、そのときになってみなければわかりません。だから、今は、「向かう」べき「第一志望」に集中してください。（新聞記者になりたかった私は、1校しか受けなかった国文科だけ合格し、そのおかげで高校の国語教師になることができました。）

そして、1・2年生の皆さん。この平成32年度（平成30年度生）からの「大学入学者選抜」の「見直し」が、私が期待するような、一般入試にAO・推薦入試的要素が加わり、AO・推薦入試に一般入試的要素が加わるようなことであるのなら、第一志望を目指すしかないじゃありませんか。

「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）」同様、この「見直し」の精神も先取りし、**文章を書き**（共通テストの「記述式」問題、個別選抜の小論文）、**第一志望を貫徹しましょう、そのプロセスは、決して、あなたを裏切りません。そのプロセスが、あなたを一流に導きます。**